

稲荷神社

岡山県倉敷市茶屋町鎮座



倉敷市茶屋町の
氏神さま



稲荷神社

☎086-428-5577

<https://inari-jinja.com/>
〒710-1101 倉敷市茶屋町1547



公式
ホームページ



公式
Instagram

令和7年改訂第二版



稲荷神社 年間主要祭典



1月 1日 歳旦祭
1月14日 新年月次祭
2月初午 初午祭
2月11日 紀元祭
2月23日 天長祭
4月29日 昭和祭

5月第三土曜日
春季大祭（祈年祭）

秋の五穀豊穡を祈る大祭。

6月30日 水無月大祓式

7月最終日曜日
夏越祭（夏祭）

茅の輪くぐり
輪をくぐり災厄を祓う夏祭。



10月第二日曜日と前日
秋季大祭（例祭・神幸祭）

10月第二日曜日の前日に、
神社にとって一年で一番の重
儀である例祭を斎行。その翌
日は、稲荷大神の御霊を戴く
神輿が町内を巡幸。

11月 3日 明治祭
11月23日 新嘗祭
秋の収穫に感謝する大祭。
12月31日 師走大祓式
除夜祭



5月・10月を除く
毎月14日 月次祭

御祭神

稲荷神社に祀られている神様



うかのみたまのかみ
宇迦之御魂神

『古事記』では須佐之男命と神大市比売命の子とされ、その神名から、食物や農耕、殖産興業、商売繁盛の神とされる。

御神徳
五穀豊穡



すさのおのみこと
須佐之男命

伊邪那岐命と伊邪那美命の子で、天照大御神・月読命と共に三貴神の石柱。農耕や病災除、災難除の神とされる。

商売繁盛
開運厄除



かむおひいちひめのみこと
神大市比売命

『古事記』では須佐之男命との間に、大年神・宇迦之御魂神を生んだ。五穀豊穡や商売繁盛、安産守護の神とされる。

八方除
安産守護

御由緒

稲荷神社の鎮座と歴史

当社が鎮座する倉敷市茶屋町（帯は、もともと海域で「吉備の穴海」と呼ばれており、近世に入り徐々に干拓されていったという歴史を持つ。江戸時代中期の宝永四年（一七〇七）、一連の干拓事業が完了すると、領主である戸川公の寄進地に、早島村城山正一位稲荷大明神の御分霊を祀り、この地域一帯の氏神とした。

享保十九年（一七三四）六月、京都の稲荷神社（現在の伏見稲荷大社）から御分霊を迎え、改めて御祭神とした。当社では、これを以て稲荷神社の鎮座とする。

宝永 四年（一七〇七） 帯江新田の干拓完了
享保 十八年（一七三三） 本殿造営
享保 十九年（一七三四） 京都の稲荷神社より御分霊を勧請

これを以て当社の鎮座とする

安永 三年（一七七四） 本殿造替（現在の本殿）

寛政 六年（一七九四） 随神門造替

明治 五年（一八七二） 神仏分離に伴い社名を稲荷神社に改称

明治 十二年（一八七九） 村社列格

大正 三年（一九一四） 神饌幣帛料供進神社に指定

昭和 五年（一九三〇） 拝殿・幣殿・神饌所改築（現在の拝殿）

昭和 三十年（一九五五） 干拓二百五十年 社務所新築（現在の社務所）

昭和 五十九年（一九八四） 御鎮座二百五十年 随神門改修（現在の随神門）

令和 十六年（二〇三四） 御鎮座三百年



随神門の神額

「稲荷宮」の神額は、旧社名の名残とされる



昭和初期の拝殿

改築された拝殿は戦前期の絵葉書に採用された



新本殿の造営

塩飽大工の手により、入母屋流造の本殿が完成した



鳥居の神額

「正一位稲荷大明神」の揮毫は、領主である戸川公のものと伝わる